

第五十九回帝國議會
衆議院

勞働者災害扶助法案外二件委員會會議錄(速記)第六回

付託議案

勞働者災害扶助法案(政府提出)
勞働者災害扶助責任保險法案(政府提出)
勞働者災害扶助責任保險特別會計法案(政府提出)

會議

昭和六年三月十八日(水曜日)午後一時
四十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 山邊 常重君

理事 枅谷 寅吉君

理事 坂東幸太郎君

理事 崎山 武夫君

理事 村上紋四郎君

理事 上田 孝吉君

小山 令之君 栗山實四郎君

佐藤 與一君 氏家 清君

佐々木芳照君 安藤 正純君

東條 貞君 西尾 末廣君

同日委員竹田儀一君辭任ニ付其ノ補闕

トシテ枅谷寅吉君ヲ議長ニ於テ選定セ

リ

同日理事竹田儀一君ノ補闕トシテ枅谷

寅吉君理事ニ當選セリ

出席政府委員左ノ如シ

內務參與官 一宮房治郎君

社會局部長 富田愛次郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左

ノ如シ

社會局書記官 北岡 壽逸君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

勞働者災害扶助法案(政府提出)

勞働者災害扶助責任保險法案(政府提出)

勞働者災害扶助責任保險特別會計法案(政府提出)

○山邊委員長 前會ニ引續キ會議ヲ開

キマス、尙ホ皆様ニ御諮リスルコト

ガアリマス、理事竹田儀一君ガ辭任セ

ラレマシタ爲ニ、其補闕トシテ枅谷寅

吉君ヲ御願スルコトニシマシタ、御承

認ヲ願ヒマス

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○山邊委員長 通告順ニ依ッテ發言ヲ

許シマス、東條委員

○東條委員 昨日ノ高見君ノ質問應答

デ大體分ッタクアウデアリマスガ、少シハ

ツクリシナイ所ガアリマスノデ伺ヒマ

ス、下請負人ノ關係ニ付テハ、昨日高

見君ガ聞カレタヤウナ場合モアリマセ

ウシ、ソレカラ其反對ニ元請負人ガエ

ライ遠方ニ居ッテ、其下請ガ工事ノ現場

ニ臨ンデ居ル場合ガアル、社會局ノ方

ハ無論御承知ノコトデアリマスケレド

モ、元請ト下請ノ關係ハ大體二通りア

リマシテ、實際ニ元請ガ工事ヲ請ケテ、

其仕事ヲ下請ニ分配シテヤラセル場

合、今一ツハ大キナ請負人ニナルト、

地方ノ一萬ヤ二萬ノ仕事ニハ手ヲ出サ

ヌ、所ガ其方面ノ大キナ元請ト連絡ヲ

執ッテ居ル下請ガアリマス、詰リ入札ヲ

スル資格ノ關係等カラ、名義ダケ元請

ノ名義ヲ借リテ、サウシテ工事金ノ五

分トカ一割ト云フモノヲ天引ニ利益ト

シテ元請ニ提供シテ、實質ニ於テハ其

下請ノ者ガ工事ヲ請ケテヤッテ居ルト

云フ例ガ澤山アリマス、丁度昨日御話

ノアツト反對ノ場合デアリマス、斯ウ

云フ場合ニ於テハ其下請ノ下ニ又下請

ガ實際附クノデアリマス、斯ウ云フ場

合ニ詰リ扶助ヲ受ケル勞働者ト元請ノ

關係ト云フモノハ殆ド全然關係ガナ

イ、サウシテ地方ニ於ケル元請ノ又下

請ト云フモノガ實際勞働者ト直接關係

スル、ドウモ災害ノ起リマシタ場合ニ

勞働者ニハ成ベク速ニ扶助料ガ渡ルヤ

ウニ致サナケレバナラヌノデスガ、色

色ナ場合ヲ想像致シマスト今ノ連帶責

任ニシテ、サウシテ勞働者ガ隨意ニ一

番便利ナ者カラ拂渡ヲ受ケラレルヤウ

事ヲシテ居ルモノガ大分アリマス、又

仕事ヲ取ッタ元請ト致シマシテモ今日

ノヤウナ不景氣ノ時ハ勿論ノコトデア

リマスガ、最初カラ利益ト云フモノヲ

頭ニ置カナイデ、損ノ行クコトヲ承知

デ取ッテ居ルノガ澤山アリマス、實際ニ

豫定價額ノ半分トカ四割トカ云フヤウ

ナ金額デ落札ヲシテ居ルモノガ澤山ア

リマス、サウシテドウスルカト申シマ

スト、結局支拂ヲ倒シ、ソレカラ勞働

者ヲ酷使シテ、サウシテ故意ニ仕事ノ

切上リガ近クナッテ來ルト、連モ居ラレ

ナイデ勞働者ガ逃ゲテ行クヤウニス

ル、逃ゲテ行ク者ハ清算ヲシテヤル必

要ガナイノダカラ、逃ゲ放題逃ゲサシ

テ置キ、或ハ又勞働者ニ對スル賃銀ヲ

清算シテ支拂スベキモノヲ支拂ヲシナ

イ、又元請カラ金ガ出ヌトカ色々ナ事

ヲ言ッテ引キ延ス、其中ニ居ナクナッテ

シマフ、或ハ工事ハ仕上ッタガ來月ノ何

日ニ拂フトカ、今月ノ晦日ニ拂フトカ

言ッテ引延シテ、結局拂ハナイデシマフ

ト云フヤウナ請負人ガ少カラズアルノ

豫

想致シマス、詰リ元請ト勞働者ノ間

ニ一人カ二人ノ下請ガ入ッテ居ルヤウ

ナ場合ニハ、元請ト下請ガドチラガ其責任ノ衝ニ當ルカト云フコトハ、勞働者ノ立場カラ見ルト色々ナ場合ガアル、非常ニ面倒ナ關係ガアル、昨日モ餘リ連帶責任ニシテ多クノ者ニ責任ヲ持タスコトハ、却テ勞働者ノ爲ニ惡イノデヤナイカト云フ御意見モ、一個ノ御意見トシテハ首肯サレル譯デアリマスガ、實際ノ請負ノ事業ノ實況カラ見マス、サウ單純ニハ考ヘラレマセヌ、ヤハリ連帶責任ニシテ置ク方ガ勞働者ノ爲ニ一番便利ト考ヘマスガ、此點ニ付テ當局ノ御意見ヲ伺ヒマス

○富田政府委員 連帶ガ宜シイカ、或ハ本案ノヤウニ元請ヲ原則ト致シマシテ、下請ト明瞭ナ引受契約ガアッタ場合ニ付テ下請ヲ責任者トシ、サウシテ元請人ヲ保證ノ地位ニ立タスコト云フノガ今度ノ案ノ建前デアリマス、ドッチガ宜イカト云フコトハ、御説ノヤウニ連帶ノ方ガ強イト云フコトハ私共モ法律論ト致シマシテハ左様ニ考ヘマス、併ナガラ之ヲ只今御舉ゲニナッタ實際カラ考察シテ、誰ガ一番經濟的ノ扶助義務ヲ果スコトガ出來ルカト云フコトヲ考ヘテ見マス、曩ニ御舉ゲニナリマシタ元請下請トノ關係ガ極メテ稀薄デ、元請ハ唯請負ッタダケデ、後ハ利益ヲ取ッテ之ヲ下請ニ渡スコト云フ場合ヲ考ヘテ見マシテモ、或ハ第二ニ御舉ゲニナリマシタ

元請ハシッカリシテ居ルケレドモ、下請ガシッカリシテ居ナイ爲ニ、或ハ資力ガ薄弱ナ爲ニ賃銀モ支拂ハナイ、又事業モ遂行シナイト云フヤウナ兩方ノ場合ヲ考ヘマシテモ、私共ガ考ヘマスノハ、ドウシテモ請負契約ヲ致ス場合ニ、先ヅ保險ノ場合ニハ保險料ト云フモノガ明定サレルノデアリマス、ソレカラ保險以外ニ於キマシテモ大體此法律ノ施行ニ依ッテ受ケル所ノ事業主ノ負擔ト云フモノハ決ッテ來ルト思ヒマス、直グハ分ラヌニシテモ、法律ヲ施行スレバ分ルノデアリマシテ、隨テ此法律ノ施行ニ依ッテ受ケル所ノ經濟的ノ負擔ハ任ヲ負フト云フコトニナレバ、是ハ元請ガ明瞭ニソレダケノ義務ヲ果スコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス、隨テ私共ガ第一ニ勞働者保護ト云フ立場カラ考ヘマス、先ヅ其契約ガ出來ル、又其契約ニ依ッテ保險料ハ大體請負價格ノ中ニ見込ムコトノ出來ル元請ヲ責任者ニスルコトガ一番勞働者保護ノ爲ニモ適當デアアル、唯ソコニ段々先般來繰返シテ居リマシヤウニ、唯下請人ガ書面ノ契約デ以テ明瞭ニ分ルト云フヤウナ場合ニハ、下請人ガ第一ノ債務者ニナッテ、サウシテ元請ガ保證ノ地位ニ立ツト云フヤウナ關係ニ置キマスレバ、結局下請ガ支拂ハナカッタ

場合ニ於キマシテハ、元請ニ行キ得ルノデアアルカラ、元請ガ之ヲ支拂フコトニナレバ、勞働者保護ニ於テ缺ケル所ガナイデアラウ、唯連帶ノ場合ニ於キマシテハ御説ノヤウニ法律上ハ其方ガ強イノデアリマスケレドモ、人情ト致シテ誰ニ責任ガアルカト云フコトガ特定致シテ居リマセヌト、何處ニ行ッテモ先ヅ向フニ行ケト云フヤウナコトニナッテ、法律上ノ問題ニナッテ裁判所デ決定スルト云フヤウナ場合ハ、事實少クナカラウト思ヒマス、併シ事實上ハ裁判外デ決定サレルモノガ大部分ト見ナケレバナラヌト思フノデアリマス、九分九厘マデハ決定サレルト思ヒマス、其責任負擔ノ實體ハ即チ曩ニ申シマシタ如ク經濟力アリ、且ツ請負當時ニ其負擔ヲ決メテ置クコトノ出來マス元請ニ責任ヲ第一ニ決メテ置クコト云フコトガ、一番勞働者保護ノ爲ニ宜イデハナイカ、又之ヲ請負人カラ考ヘマシテモ、自分ガドレダケノ負擔ヲスルト云フコトハ豫メ分ルノデアリマスカラ、ソレハ元請ヲシテ居ル元請人ニ於テモ負擔上過酷デハナイ、斯ウ云フ兩者ノ側カラ考ヘマシテ、元請主義ト云フコトガ勞働者ノ爲ニモ、又請負師ノ爲ニモ適當デアラウ、私共ノ考ハ其處ニアルノデアリマス、御説ノヤウニ連帶デ行クト云フコトモ

法律論トシテハ御尤ナ御意見ダト思ヒマスガ、連帶ヲ斯ウ云フ風ニ變ヘテ來マシタ趣旨ハ、全クソコニ在ルノデアリマス

○東條委員 元請ダケノ責任ニスルト云フコトデアレバソレマデスガ、其元請ト下請トノ間ニ書面ノ契約ガアル場合ニハ、下請ノ一人ヲヤハリ第一段トシナケレバナラヌ、認メル、斯ウ致シマスコトニナリマス、元請ノ下ニ直接ノ下請ダケガアリマス場合ハ議論ハナイガ、更ニ其中ニモウ一人人ガ這入りマシタ場合ニ、其中ノ何レノ者ガ下請トシテノ責任者ニナルカト云フコトガ、是ガ實際上大變問題ニナルト思ヒマス、ソレデ工事ハ極ク責任ヲ重ンズル大キナ信用ノアル營業者ニナリマス、サウ無理ノコトハ致サナイ、ケレドモ今ノヤウニ大キナ人ノ名儀デ、歩ヲ拂ッテ、地方ノ小サイ工事ヲヤッテ居ルヤウナ者ニナルト、相當無理ヲヤル、斯様ナ場合ニ結局ハ責任ヲ負フト云フコトニナルノデアリマスカラ、元請モ其者ノ言フコトニ信賴ヲシテ、サウシテ無論此扶助ノ責任ヲ法律デ定メラレタ以上ハ、承知ヲシテ下請ニ渡シハ致シマスケレドモ、此扶助ノ責任ヲ負フベキ者ヲ資力ノ無イ、信用ノ無イ、サウシテ別ニサウ信用ト云フコトニ重キヲ置ク必要ノナイ一番下級ノ請負人ナドニ

責任ノ衝ニ當ラセテ置イテ、サウシテ
出來ルダケ續ケサセル、ソレカラ勞働
者ナドト云フモノハ極ク單純ノモノデ
アリマスカラ、扶助料ナドデナクテモ
勞働賃銀デサヘモ清算ヲシテ、假ニ百
圓ナラ百圓ノ取り前ガアルトシテモ、
併シ今ハ金ノ都合ガ惡クテソレダケ拂
ヘナイガ、半分ニ負ケレバ今拂ッテヤ
ウト言フト、ソナラソレデモ宜イ、何
デモ早ク貫ッタ方ガ宜イト云フヤウナ
コトデ、解決ノ付クコトガ間々アル、扶
助料ナドノ場合モ元請モ責任ヲ負ッテ
居ルノダカラト云ッテ十分是ト交渉ヲ
シテ、取ルダケノモノハ必ズ取ルト云
フコトガ、普通常識カラ考ヘレバサウ
行カナケレバナラヌ筈デアリマスケレ
ドモ、其處ニ巧妙ニ勞働者ヲ操縦スル
腕ヲ持ッテ居リマス下請ノ請負師ナド
ハ、サウ云フ場合ニ妥協ノ幾分カノ
金ヲヤッテ、ソレデ濟シテシマフベク手
段ヲ講ズルト云フヤウナコトモ想像ガ
出來ルノデアリマス、ソレデ成ベク出
來ルダケ信用ノアル、サウシテ信用ヲ
重ンゼンナラヌ立場ニ在ル者ガ、勞働
者トノ間ニ於テ直接ニ責任ヲ負フヤウ
ナコトニシテ置クコトガ必要ダと思
フ、例ヘバ東京ナラ東京ノ一流ノ請負
師ガ元請デアッテ、事實上ノ元請人或ハ
名義上ノ元請人デアッテ、サウシテ地方
ノ中流ノ請負師ガ其下請ニナル、サウ
シテ實際勞働者ヲ使フ、又其下請ヲシ
タト云フヤウナ場合ヲ想像致シマス
ト、ヤハリ結局ハ今ノ一流ノ請負人ノ
所ニ來テ取り得ルモノデアリマシテ
モ、是ハ高見君カラ大分詳シク御話ヲ
申上ゲタヤウデアリマスガ、ソコマデ
行クニハ大變デアアル、直接自分ノ關係
シテ居ル下請ノ所デハ中々話ガ纏ラヌ
ト云フヤウナ時ニ、申請ト申シマスガ、
申請ニナッテ居ル人モ共同ニ聯帶シテ
責任ヲ負フト云フコトニナッテ居ルガ、
ソコマデ行ッテ話ヲスレバ、其人ハ地方
ニ於ケル相當ナ人トシテ、サウ云フ者
ヲ胡麻化シテシマフ、或ハ引張ルト云
フヤウナコトハ信用上出來ナイト云フ
立場ニ居ル、是ガ責任ノ衝ニ當ッテ居
ヌト致シマスルト、ソレデヤオ前ノ所
ノ親父ノ所ニ行ッテ話ス、斯ウ言ッテ撃
退スルコトガ出來ル、斯ウ云フ實際上
ノ立場カラ考ヘテ、ヤハリ關係シタ人
ガ皆責任ヲ負フヤウニシテ置ケバ宜イ
ヤウニ考ヘルノデアリマス、併シ此間
題モ大分昨日カラ押問答ガアッタノデ
アリマシテ、結局ハ意見ノ相違ニナル
カモ知レマセヌカラ、此程度デ止メマ
スガ、此御配布ノ參考書類ヲ見マスル
ト、國ガ直接ニ拂渡ス場合ヲ豫想サレ
テ居ル、扶助料ハ寧ロ國ガ直接ニ拂フ
ト云フコトヲ建前ニシテヤラレタナラ
バ、サウ云フ問題ハ起ラヌ、場合ニ依ッ

テハ國ガ直接拂フト云フ位ノ考デアレ
バ、寧ロ國ガ直接ニ拂ッテヤッテハドウ
カと思フ、保險ヲシタ者ニ付テハ國ガ
直接ニ拂フト云フコトヲ原則ニシテ、
建前ニシテヤッタナラバ、サウ云フ心配
ハナイノデヤナイカト考ヘマス

○富田政府委員 御承知ノヤウニ災害
扶助責任ト云フモノハ、工場法デモ、鑛
業法デモ左様デアリマスガ、勞働者其
者ヲ使ッタト云フ事由デ以テ、事業主ガ
負擔ヲスルト云フノガ、本來ノ建前ナ
ノデアリマス、隨ヒマシテ、保險ノナイ
限リハ、事業主ガ業務上傷害ノアッタ勞
働者ニ對シテ直接拂フト云フノガ建前
ナノデアリマス、法ノ建前ガサウナッテ
居ルノデアリマス、唯保險ノ場合ニ付
テ考ヘテ見マスルト、保險シナイ範圍
ニ於テハ、是ハ事業主ガ先キノ原則ニ
依リマシテ、直接ニ保險シテアリマス
以外ノ分ニ付テハ、直接ニ勞働者ニ拂
フノデアリマス、唯御説ノ點ハ保險ノ
アッタ分ニ對シテ直接勞働者ニ支拂ッ
タ方ガ宜イデヤナイカト云フ斯ウ云フ御
説ト考ヘマス、保險ノ方ハ段々御説明
致シテ居ルヤウニ、責任ノ保險ニナル
ノデアリマシテ、其事業主ガ持ッテ居
マス責任ヲ、國家ガ危險ノ分散、又扶助
ノ確實ト云フ譯デ、國家ガ補助シテ居
ルノデアリマス、隨ヒマシテ普通ノ保
險ト、社會保險ト稍、趣ガ違ッテ居ルノ

デアリマシテ、此建前ハソレガ事業上
ノ傷害、疾病デアリマス以上ハ、此事業
者ガ之ヲ直接ニ勞働者ニ支拂フノデア
リマス、サウシテ其支拂ッタモノニ對シ
テ國家ガ支拂フ債リデゴザイマス、隨
ヒマシテ原則トシテハ初ノ建前ノ通り
ニ事業主ガ支拂ッテ、サウシテ國家ガ保
險シテ居ル部分ニ付テ後ニ國家ガ其分
ニ對シテ契約者ノ事業主ニ拂フ、斯ウ
云フ建前ニシテアルノデアリマシテ、
ソレデ差支ナイと思ヒマスガ、但シ是
ハ後ニ勅令デ決メル積リデアリマス
ガ、勞働者ニ對シテモ或ハ遲延シテ居
リマスとか、或ハ事業主ノ方カラ勞働
者ニ支拂ヒマセヌト云フヤウナコト
デ、勞働者ノ方ノ扶助ヲ貫ヒ受ケルコ
トノ確實デナイト國家ガ認メル場合ニ
於キマシテハ、國家ガ直接ニ勞働者ニ
支拂フ方法ヲ立テ積リデゴザイマシ
テ、事業主ガ先ニ拂フ、先ニ事業主ガ拂
ヘナカッタ場合ニ付キマシテハ、國ガ直
接ニ事業者ニ拂フト云フコトニ國ガ認
メマス結果、此法ノ目的ト云フモノハ
達スルコトガ出來ル、斯ウ考ヘテ居ル
次第デアリマス

○東條委員 ソレカラ今一ツ高見君ノ
質問ニ付テ關聯シタコトデアリマスガ
ラ御尋致シマス、假ニ或ル請負業者ガ
十人ナリ二十人ナリノ常用ノ人夫、或
ハ常用ノ職人ト云フ者ヲ持ッテ居ル、一

萬圓或ハ延人員一千人ト云フ制限ガアリマス、其方ニ其者ヲ全部働カシテ居リタ、所ガ平素カラ得意先ニシテ居リマス所カラ、一寸斯ウ云フ仕事ガアルカラヤッテ貰ヒタイト云フヤウナ話ガアリマシテ、今日ハオ前何處其處ニ行ッテ稼イデ來イト言ッテ、其行先デ以テ何カ間違ノ爲ニ怪我ヲスル、斯ウ云フヤウナ場合ニ、ソレガ一萬圓或ハ一千人ノ制限ニ入ッテ居ラヌ證據デアリマスカラ、業務上ノ權利トシテハ受ケルコトガ出來ナイ、是ハ大變不自然デアリマス、ソコデ十人以上使用スルト云フ條

項ガアリマスガ、ヤハリ土木建築請負業ノ方ニモ之ヲ加ヘマスナラバ、高見君ノ大變心配サレタコトガ解決ガ付クト思ヒマス、十人ト云フ數ガ適當デアルカナイカト云フコトハ、別問題トシテ、之ニ付テノ御意見ヲ伺ヒマス

○富田政府委員 此法案ハ御承知ノヤウニ一定ノ規模ト危險ト云フ、此二ツノ點カラ扶助ヲスルコトニ致シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ危險ト云フコトト一定ノ例ヘバ一條ニアリマス動力、火藥ヲ用ヒルト云フ場合ハ、其規模ノ如何ヲ問ハズ、扶助スルコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、然ラザル場合ハ或ハ工事自體ノ大キサ、若クハ事業其モノ、人數ト云フコトデ、一定ノ制限ヲ置イテ居ルノデアリマス、御説ノヤ

ウニ單純ナル筋カラ言ヒマス、其規模ヲ問ハズ、或ハ其事業ノ大キサヲ問ハズ、一般ニ適用スレバ或ハ宜イカモ知レマセヌケレドモ、併シ是ハ現行工場法ニ於テモ、十人以上ニ適用スルト云フコトデ、總テ規模ノ制限ヲ受ケルコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、工事ノ場合ニ付キマシテモ、只今御説ノヤウナ場合ニ於キマシテハ、成程適用ハアリマセヌ、一寸手傳ニ行ッテ其處デ傷害ヲ受ケタト云フヤウナモノニ付テハ適用ハアリマセヌガ、大體ノ建前ガ假ニ一萬圓ナラ一萬圓トシマス、一萬圓以上ノ工事ヲシマスナラバ、相當大キナ工事デアッテ、危險モ多イデアラウ、隨テ危險ノ多イ大キナ工事ト云ヒマシテモ、一萬圓ナリ一萬圓以上ノ工事ニ付テ之ヲ適用スルコトガ、小サナモノデモ之ヲ適用スルコト云フコトヨリモ、一定ノ工事ト云フコトデ押ヘルコトガ、工事ノ規模ヲ押ヘル、工事ノ規模ヲ押ヘルト云フコトニナリマス、一定ノ所デ制限ヲ致スト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ナイノデハナイカ、ソレヲ飽マデモ十人ト云フ事業ノ範圍デ以テ押ヘ、又危險デアアルナラバ、一定ノ危險ノ仕事ヲシテ居ル者ニ對シテ適用スルト云フノデアリマシテ、本來ハ此法自體ガ勞働者ノ總テニ適用スルモノデハナクシテ、曩ニ御説明申シタヤウニ、一

定ノ期限、規模ト云フコトヲ抑ヘテ、事業全體ニ適用スル筋合ニナッテ居リマセヌカラ、其點ハサウ云フ筋合ノ立法ニ相成ッテ居リマス

○東條委員 詰リ規模ヲ全然認メナイノデアリマセヌ、一方土石砂鑛ヲ採取スル事業デ、土木建築ノコトデ常時十人以上ノ規模ヲ土木建築請負業ノ仕事ニモヤハリ持ッテ來ラレタラバドウカト云フ話デアリマス

○富田政府委員 土木建築工事ニ付テハ第一條ノ第二項ニ土木工事又ハ工作物ノ建設ト云フコトデ、ソレハ其人ノ使用シテ居ル人ノ數デハナク、工事自體ガ危險ナルモノ、又建築自體ガ一定ノ危險、若クハ大イサノモノデ、其工事若クハ建築自體ニ付テ考ヘマシテ、偶々當時十人勞働者ヲ持ッテ居ル者ニ適用スルノデハナク、其工事ニ適用スルト云フ建前ニシテアル結果サウナッテ居ルノデアリマス、恐ラク御説ノヤウナ大イサノ工事ニ適用シナイヤウナ場合ニ障礙ヲ起シタ場合ニハ、所謂從來ノ親分子分ノ關係ハ温情主義ト言ヒマス、其使用者ハ其勞働者ヲ保護シテ居ルノガ普通デアリマス、本法ノ適用ハ受ケマセヌガ、從來ノ温情ニ依テ扶助ヲ受ケルコトニ相成ラウト考ヘ

五條、六條、七條ノ場合ニ於テ、事業主ガ惡意又ハ過失ニ依ッテ生ジタコトノ爲ニ保險金ヲ支拂ハヌトナルト、是ハ保險ノ方カラ言ヘバ斯ウ行カケレバナラヌト思フガ、若シ此責任ヲ負フテ居ル者ガ斯様ナ場合デモ扶助ヲ實際ニ出來レバ宜イノデアリマスガ、若シ資力ガ十分デナク、或ハ其工事ニ損ヲシタ爲ニ扶助ガ出來ナイト云フコトニナルト、遂ニ扶助ガ受ケラレナイト云フ結果ニナル、又此頂戴シタ參考資料ニ依ルト、勞働者ノ重大ナル過失ニ依ル場合ハ扶助ヲシナイデ宜イト勅令ニ規定サレル御方針ノヤウデアリマス、是等ハ故意ノ場合ハ仕方ガナイガ、重大ナル過失ハ一寸常識デ考ヘラレナイ事實ガ偶々アリマス、是ハ私ガ實驗シタ話デアリマスガ、室蘭ノ日本製鋼所建設ノ爲ニ「ラツバ」山ト云フ大キナ山ヲ火藥デ爆發シテ壞シテ埋立テヲスル工事が、丁度十二月ノ寒イ時デドン／＼火ヲ焚イテ居ッテ「ダイナマイト」ヲ使ッテ山ヲ崩スノデスガ、其「ダイナマイト」ガ凍ッテシマッテ溶サナイト爆發シナイ、ソレデ石油罐ニ穴ヲ明ケテ針金ヲ二本中途ニ置イテ、下ニ水ヲ入レテ其針金ノ上ニ「ダイナマイト」ヲ竝ベテ火ヲ焚イテ居ル所ヘ掛ケテ溶カス、既ニ其事ガ吾々カラ考ヘルト非常ニ危險ナコトデアリマス、ケレドモソレヲ一向

○東條委員 ソレカラ此責任保險法ノ

○富田政府委員 土木建築工事ニ付テハ第一條ノ第二項ニ土木工事又ハ工作物ノ建設ト云フコトデ、ソレハ其人ノ使用シテ居ル人ノ數デハナク、工事自體ガ危險ナルモノ、又建築自體ガ一定ノ危險、若クハ大イサノモノデ、其工事若クハ建築自體ニ付テ考ヘマシテ、偶々當時十人勞働者ヲ持ッテ居ル者ニ適用スルノデハナク、其工事ニ適用スルト云フ建前ニシテアル結果サウナッテ居ルノデアリマス、恐ラク御説ノヤウナ大イサノ工事ニ適用シナイヤウナ場合ニ障礙ヲ起シタ場合ニハ、所謂從來ノ親分子分ノ關係ハ温情主義ト言ヒマス、其使用者ハ其勞働者ヲ保護シテ居ルノガ普通デアリマス、本法ノ適用ハ受ケマセヌガ、從來ノ温情ニ依テ扶助ヲ受ケルコトニ相成ラウト考ヘ

○東條委員 ソレカラ此責任保險法ノ

○富田政府委員 土木建築工事ニ付テハ第一條ノ第二項ニ土木工事又ハ工作物ノ建設ト云フコトデ、ソレハ其人ノ使用シテ居ル人ノ數デハナク、工事自體ガ危險ナルモノ、又建築自體ガ一定ノ危險、若クハ大イサノモノデ、其工事若クハ建築自體ニ付テ考ヘマシテ、偶々當時十人勞働者ヲ持ッテ居ル者ニ適用スルノデハナク、其工事ニ適用スルト云フ建前ニシテアル結果サウナッテ居ルノデアリマス、恐ラク御説ノヤウナ大イサノ工事ニ適用シナイヤウナ場合ニ障礙ヲ起シタ場合ニハ、所謂從來ノ親分子分ノ關係ハ温情主義ト言ヒマス、其使用者ハ其勞働者ヲ保護シテ居ルノガ普通デアリマス、本法ノ適用ハ受ケマセヌガ、從來ノ温情ニ依テ扶助ヲ受ケルコトニ相成ラウト考ヘ

不思議ニシナイデヤッテ居ルノデアリ
マスガ、減多ニソレガ爲ニ傷害ヲ生ズ
ルヤウナコトハナイ、所ガ或時、丁度
煙草休ミノ時ニ一寸注意ヲ怠ッタ爲ニ、
其湯ガ段々ト蒸發シテナクナッタ、サウ
シテ罐ガ燒ケ、針金ガ燒ケマシタ爲ニ
爆發シタ、サウシテ周圍ニ約二十人バ
カリノ者ガアタッテ居ッタガ、其中ノ一
人ハ全然影モ姿モナクナリ、三人バカ
リ死ニ、怪我ヲシタ者モ澤山アリマス、
斯ウ云フヤウナコトナドモ一寸考ヘル
ト、是ハ重大ナル過失ト言ッテ宜イ、又
ソシテ「ダイナマイト」ヲ使フ者ハ腹掛
ノ井ノ中ニ「ダイナマイト」ト釘ナドヲ
一緒ニ入レテ居ルガ、ソシテコトヲ一
向危險ト思ハナイ、普通ノ常識カラ考
ヘルトアンナ爆發物ヲソシテ扱方ヲス
ルノハ、實ニ重大ナル過失ト謂ハナケ
レバナラス、扶助料ガ貰ヒタイ爲ニ怪
我ヲスルト云フコトガ絶對ニナイトハ
言ヘマセヌ、其重大ナル過失ト云フコ
トハ、考ヘル人ノ頭ノ程度ニ依ッテ大變
ニ標準ガ違フ、殊ニ危險ナ仕事ヲスル、
或ハ爆發物ヲ使フトカ、或ハ暗イ所デ
仕事ヲスルト云フヤウナ、危險ナル仕
事ヲスル人ハ、ソレヲ危險ト考ヘテハ
仕事ハ出來ナイ、普通ノ人カラ申セバ、
十分注意シテヤラナケレバナラヌト思
フヤウナモノヲ危險ト考ヘズ、何等ノ
注意モセズ平氣デヤルノデ怪我ヲスル

コトガ出來ル、斯ウ云フ點カラ考ヘル
ト、重大ナル過失デアアルヤ否ヤト云フコ
トヲ判斷スルノハ、結局相當常識ヲ備
ヘタ人ガ判斷スルコトニナルデアリ
マセウガ、サウ云フ人ノ頭カラ考ヘタ
重大ナル過失ト云フコトガ、必ズシモ
勞働者ノ立場カラ言ヘバ、重大ナル過
失トハ言ヘナイ、寧ロ斯ウ云フ條項ハ
設ケラレナイ方ガ實際ニ適合スルノデ
ハナイカト考ヘマス

○富田政府委員 先ノ第一ノ點デアリ
マスガ、是ハ事業主ノ扶助責任保險ヲ
取りマシタ以上、工事請負デアルト、
工事ノ額百萬圓ナラバ百萬圓ヲ基礎ト
シテ保險料ヲ納メルノデアリマス、隨
テ工事費ヲ五十萬圓ト僞リ、保險料ヲ
半額ヨリ納メナカッタト云フヤウナ場
合ニ付テハ、是ハドウモ保險經濟ヲ維
持シナケレバナリマセヌカラ、其保險
料算定ノ基礎タル重要ナル事實ヲ告知
シナカッタナラバ、保險ヲスル性質上サ
ウ云フ場合ニ付テハ政府ガ保險料ノ全
部、一部ヲ支拂ハナイト云フコトハ、
保險ノ建前ヲ探ッタ以上已ムヲ得ナイ
ト思ヒマス、但シ運用ノ場合ニ當ッテ
ハ、ソレガ爲ニ勞働者ガ扶助ヲ受ケ得
ナイト云フコトニナッテハ、保險ノ結果
勞働者ノ保護ガ十分出來ナイト云フヤ
ウナコトガ出來致サナイトモ限リマセ
ヌカラ、保險ノ建前カラ已ムヲ得ナイ

コトデアリマスガ、勞働者ノ扶助保
護ト云フコトニ付テハ實行上十分ナル
注意ヲ要スルコト、考ヘマスガ、此五
條ノ趣旨ハサウ云フ譯デ保險經濟ヲ十
分ニスル爲ニハ、不實ノ申告ヲシタ場
合ニ警戒ヲスルト云フ意味合ニ外ナラ
ナイデアリマス
第二ノ重大ナル過失ガ事實問題トシ
テハ非常ニ困難デアルト云フ御話デア
リマスガ、是ハ御尤ナコトデアリマシ
テ、果シテ重大ナル過失アリヤ否ヤト
云フコトヲ事實ニ於テ認定スルコト
ハ、可ナリムヅカシイコト、考ヘマス、
單純ナ法律論ト致シマシテハ果シテ重
大ナル過失アリヤ否ヤト云フコトハ、
裁判所ニ行カナケレバ決定シナイコト
ニナッテ居ルノデアリマスガ、ソコハ法
ノ運用デアリマスカラ、果シテ重大ナ
ル過失アリヤ否ヤト云フコトハ、是ガ
認定ノ上ニ付テ十分ニ注意ヲ致ス積リ
デアリマススケレドモ、是モ保險デアリ
マス爲ニ、保險契約者トカ保險金受取
人ニヤハリ災害豫防ト云フコトニ付テ
十分注意ヲ促ス、隨テ成ベク勞働者ニ
モ障害ガ起ラヌヤウニ、未然ニソレヲ
防グコトガ必要デアルト云フ考デ實ハ
七條ガ置イテアルノデアリマシテ、故
意過失ノアッタ場合ニ成ベク支拂ハヌ
ト云フ趣旨ヨリモ、實ハ之ヲ豫防スル
ヤウニ致シタイト云フノガ本來ノ肚ナ
ノデアリマス、隨ヒマシテ重大ナル過
失ト云フ言葉ハ民法其他ノ法典ニモ澤
山アルノデアリマスガ、事實問題トシ
テハ困難デアルト致シマシテモ、ソレ
ガ問題トナッタ場合ニハ裁判所デ決定
スルヨリ致方ガナイ問題デアラウト思
ヒマスガ、要ハ事業主、保險契約者ニ十
分注意ヲ致サセタイト云フ趣旨ニ外ナ
ラナイデアリマス

○東條委員 重大ナル過失ニ付テ私ノ
伺ヒマシタノハ、保險ノ方デナク、扶助
法施行命令ニ規定スベキ重要事項腹案
トシテ御示ニナリマシタ中ニ、重大ナ
ル過失ノアッタ場合ニハ障害扶助料ヲ
支給スルコトヲ要セザルコト、アリマ
ス、即チ勞働者ニ重大ナル過失ガアッタ
場合ニハ保險料ハヤラス、斯ウ云フコ
トヲ、施行命令ニ規定スベキ重要事項
腹案トシテ御示ニナッテ居リマスガ、是
ハ過失デアッテモ何デアッテモ、扶助料
ヲ與ヘラレタ場合ニハ必ズ保險金ヲ支
給スルト云フコトニシタ方ガ宜イト思
フガ如何デアルカ、斯ウ云フ意味ノ質
問デアッタノデアリマス

○富田政府委員 趣旨ハ先程申シマシ
タ通りデアリマスガ、斯様ナ故意又ハ
過失ニ依ル場合ニ全部又ハ一部ヲ支拂
ハナイト云フコトハ、他ノ法制ニモア
ルノデアリマシテ、例ヘバ之ト同ジヤ
ウナ性質ヲ持ツ工場法施行令ト云フノ

第五類第二十八號 勞働者災害扶助法案(政府提出)外二件委員會議錄 第六回 昭和六年三月十八日

第五類第二十八號 勞働者災害扶助法案(政府提出)外二件委員會議錄 第六回 昭和六年三月十八日

第五類第二十八號 勞働者災害扶助法案(政府提出)外二件委員會議錄 第六回 昭和六年三月十八日

第五類第二十八號 勞働者災害扶助法案(政府提出)外二件委員會議錄 第六回 昭和六年三月十八日

者ノ手ニ入ルノモ遅レルコトニナリマ
スルガ、其事務ハドウ云フ組織デ御扱
ヒニナルノデアリマス、ソレヲ一寸
承リタイ

○富田政府委員 保險組織ノ御尋デゴ

ザイマスガ、保險組織ハ地方ニ於テハ
工場課ト云フモノガアリマス、府縣知
事ノ監督ノ下ニアル一課デアリマス
ガ、ソコハ從來ノ工場法等ノ仕事ヲシ
テ居リマス、又保安課デヤッテ居ル所モ
アリマスガ、要スルニ地方官廳ノ工場
課ナリ保安課ト云フヤウナモノガ致シ
テ居リマス、隨テ實際調査スルト云フ
ヤウナコトハ、警察署ヲ通ジテ警察官
ノ手デ致サナケレバナラヌト云フ場合
ガ多イト思ヒマス、中央ハ内務省ノ社
會局デ中央ノ仕事ヲ致シタイト思ッテ
居リマス、隨ヒマシテ先ノ御話ノヤウ
ナ場合ニ於キマシテハ、事故ガ起リマ
スレバ此法ノ建前ト致シマシテハ事業
主ガ直接ニ保險ガアルトナイト問ハ
ズ、一應支拂ハナケレバナラヌ關係ニ
相成ッテ居ルノデアリマス、ソレヲ支拂
ツタカ、支拂ハヌカト云フヤウナコト
ハ、地方ノ監督官廳ニ十分監督致サセ
ル積リデアリマス、サウシテソレハ保
險ニ關シマスル限リハ一應事業主ガ支
拂ヒマシタモノガ、保險ニ關スル限リ
ハ地方ノ工場課ニ出テ參ルノデアリマ
ス、工場課デハ果シテ此請求ガ適當ナ

リヤ、或ハ又法ニ適ッテ居ルカドウカト
云フヤウナコトヲ地方廳デ取調ベマシ
テ、之ヲ内務省ニ申達シテ參リマスル
ト、内務省デハソレヲ一應審査ヲ致シ
マシテ、地方ノ審査官ガ適當デアルト
致シマスレバ、其保險金ヲ事業主ニ支
拂フト云フヤウナコトニ依ッテ行キタ
イト思フノデアリマス、御話ノヤウニ
勞働者ガ泣寝入ニナリ、十分ノ權利ヲ
行ヘナイト云フヤウナコトハ、此法ガ
ナイ場合ニ於テハ全ク温情ニ依ッテ行
ハレテ居ッタノデアリマスガ、此法律ガ
施行サレテ、從來ノ温情主義デナク、
勞働者モ又權利トシテ此扶助料ヲ請求
スルコトガ出來ルト云フコトニ相成ッ
テ參リマスルト、段々トサウ云フ泣寝
入ニ終ルコトハナクシテ、請求シテ扶
助ノ重大ナル給與ヲ受ケルコトガ出來
ルト考ヘテ居ル次第デアリマス

○東條委員 ソレカラ第七條ニハ事業

主ガ扶助ヲシナカッタ場合ニ罰則ガ設
ケラレテ居ル、實際ニ此小サナ請負人
ナシカト云フモノハ隨分如何ハシイ者
ガアリマス、中ニハ餘リ信用ト云フコ
トヲ重シジナイモノガ大部分アル、結
局ハ扶助トカ、ソレニ對スル責任保
險ト云フヤウナ問題デナク、モウ一步
大キナ所カラ、個人ノ事業ハ致方ナイ
トシマシテモ、國或ハ公共團體等ノ請
負事業ト云フモノニハ、餘程研究ノ餘

地ガアルト思フ、是ハ問題外デアリマ
スカラ差控ヘマスガ、殆ド身體一ツ同
様デ工事ヲ入札シテ、落札ヲ致シテカ
ラ此仕事ヲヤルノダカラト言ッテ、資金
ヲ借りテ人夫ヲ集メテ仕事ニ掛ルト云
フ者ガ澤山アル、何十萬ト云フ大キナ
仕事ニハ資格條件ナドデ撥ネラレルコ
トモアリマスケレドモ、先ヅ一萬圓程
度ノ小サナノヲ取ル人ニ多イ、仕事ノ
小サイ割合ニ災害ガ大キイト云フヤウ
ナ場合ニハ、今ノ扶助ヲシナイデ放ッ
ラカシテ置イタ方ガ、却テ得ダト云フ
ヤウナ考カラ扶助ヲシナイヤウナモノ
ガ假ニアリト致シマス、其場合ニ於
テ扶助ニ要スル金額ト、ソレカラ料
トノ關係ガアリマスルガ、罰金等ノ關
係ニナルノデアリマス、斯ウ云フ場合
ニ體刑ヲ用ユルコトハ出來ナイデアリ
マセウケレドモ、此千圓ト云フノハ少
ナ過ギハシナイカト思ヒマスガ

○富田政府委員 只今ノ御尋ハ二ツア

リマスガ、一ツハ實際請負者ニシテ現
實ニ資力ハ無クトモ、事實上請負ヲス
ル場合ガアル、サウ云フ場合ニハ資力
ガ無クテ十分ナル勞働者ノ保護ヲスル
コトガ出來ナイデハナイカト云フ問題
ト、千圓ノ罰金ハ少額デハナイカト云
フ問題ニナルト思ヒマス、假ニ其人ハ
借金ヲシナケレバ仕事ガ事實上出來得
ナイ、詰リ債務ノ方ガ多イ事業主デア

リマシテモ、茲ニ所謂資力ト申シマス
ルノハ勞力財産ハ無論ノコト、其人ノ
信用力ニ依ッテシテモ尙ホ支拂ハヌ場
合ト云フ風ニ解釋ガ司法省トモ話ガ付
イテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ假
ニ其人ガ現金財産ハ持チマセヌデモ、
其人ノ信用力ニ依ッテ他カラ融通力ガ
アルニ拘ラズ支拂ハナカッタト云フ場
合ニ於テハ、ヤハリ此七條ノ適用ヲ受
ケマシテ、資力アルニ拘ラズ扶助ヲ爲
サルト云フニ該當スルコトニナッテ參
ルノデアリマス、次ニ千圓以下ノ罰金
ハ少額ニ過ギハシナイカト云フノデア
リマスガ、是ハ程度ノ問題ニ相成リマ
ス、マア是位ノ罰金デアリマシタナラ
バ、罰金トシテノ目的ヲ達スルノニ差
支ナカラウト云フノデ、規定ニ相成ッテ
居ル譯デアリマス、別ニ絶對的ニ是デ
ナケレバナラヌト云フ程ノモノデハナ
クシテ、程度問題デアルト考ヘマス

○東條委員 ソレカラ保險料作成ノ基

礎ニ付テ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマ
ス

○富田政府委員 數字ノ細カイコトニ
ナリマスカラ、説明員カラ數字ヲ詳シ
ク申上ゲマス

○北岡社會局書記官 保險料ニ付キマ
シテハ從來土木建築請負業及ビ其他本
法ヲ適用ニナリマスル事業ニ付キマシ
テ、災害統計ヲ作リマシテ、其中デー

番先ヅ信用ガ出來ル統計ニ間違ガアル マイト云フヤウナ統計ヲ纏メマシテ、 集計致シマシテ災害ノ率ヲ出サセル、 其率ヲ出シタ表ハ御手許ニ差上ゲテ居 リマスカラ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマ ス、ソレニ依リマシテ數字ガ出マスガ、 併ナガラ土木建築業ト云フモノハ現在 扶助ヲ法律デ強制致シテ居リマセスカ ラ、届出ヲ致シマシテモ十分デナイト 思ハレマスノデ、相當ノ安全率ヲ見マ シテ、保険料率ヲ計算シタノデアリマ ス、尙ホ其他ノ積立金モ多少入ルノデ アリマスシ、又本法ニ於キマシテハ事 務費モ保険料ノ負擔ト云フコトニナッ テ居リマスカラ、ソレモ保険料ノ約一 割ト云フコトニシテ加算致シテ御手許 ニ差上ゲタヤウナ保険料ニナッテ居リ マス、保険料ノ基礎ハ一應ハ勞働者一 人一日當リドノ位掛ルカト云フコトニ シテ出シテ居ルノデアリマス、ソレヲ 更ニ工事費用ニ當テレバドノ位ニナル カト云フヤウニシテ、兩方御手許ニ差 上ゲテアリマスルガ、一寸一ツ實例ヲ 申シマスルト、土木建築工事ニ於テ一 番危険ノ多イノハ「トシネル」デアリマ シテ、其「トシネル」ニ付キマシテハ一 人一日當リ五錢位ニナッテ居リマス、之 ヲ工事費用ニ割當テマスノデ一萬圓ニ 付テ九十八圓、ザツト百分ノ一ニナッテ居 リマス、ソレカラ建築ニ付テ申上ゲマ	スト、一日一人當リ二錢七厘位、サウ シテ工事費ニ割當テマススト、一萬圓ニ 付キ二十一圓、即チ千分ノ二強ト云フ コトニナッテ居リマス、尤モ是ハ工事ノ 分類ニ付キマシテ之ガ確定シタモノデ アリマセスカラ、多少變ルカモ知レマ セヌガ、大體ノ見當ハ其邊デ先ヅ間違 ナイト御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス ○東條委員 從來ノ災害統計ヲ基礎ト シタト云フコトデアリマシタガ、此災 害統計ノ資料ハ、ドウ云フ資料ヲ御集 メニナッタノデスカ、何カ的確ナ據ロノ アルヤウナ資料ガアリマシタノデス カ	○北岡社會局書記官 土木建築請負業 ニ付キマシテハ、全國土木建築請負業 聯合會ト云フモノガゴザイマスカラ、 其會員ノ方々ニ頼ミマシテ、相當統計 ノ確實ト思ハレルモノカラ、出來ルダ ケ廣ク統計ヲ取ッタノデアリマス、ソレ 以外ノモノニ付キマシテハ、府縣廳ヲ 通ジマシテ、ズツト様式ヲ配リマシテ、 災害統計ヲ戴イテ、其中デ當テニナラ ヌモノハ捨テマシテ、信用ノ出來ル確 實ノ記録ニ依ッテヤッタト認メラレルモ ノニ付キマシテ、集計ヲ致シタノデア リマス	○東條委員 段々工事方法ガ進ンデ參 リマシテ、機械ヲ使フコトガ多クナリ、 變ッタ動力ヲ使フヤウニナリ、建築ニ於 テモ高層建築ガ多クナルニ從ッテ、從來 集メタ統計資料デ今後實行シマスニ付 テハ、相當其處ニ安全率ヲ見ナケレバ ナラヌ譯ニナリマスガ、安全率ハ一體 ドノ位見テ居リマスカ ○富田政府委員 大體安全率ハ七十 「パーセント」見テ居リマス、ソレカラ 此際申上ゲテ置キタイト思ヒマスガ、 御話ノ危険率ト云フモノモ、高層建築 ガ段々出テ來テ、機械力ヲ用キルヤウ ニナリマススト、危険率モ自然動イテ來 ルト考ヘマス、サウ云フ場合ニハ、前 ニ申上ゲマスヤウニ、此保險ハ責任保 險デアリマスカラ——責任ヲ保險シテ 居ル事業主ノ保險デアリマス、隨ッテ國 家ガ之ヲヤルノデアリマセスカラ、一 應取リマシタ保險料デモ、若シ危険ガ 割合ニ減ズルト云フコトニナッテ、保險 料ガ餘ルト云フ場合ニハ保險料率ヲ引 下ゲマシテ、事業主ニ還付スル積リデ アリマス、之ニ反シマシテ危険率ガ増 シテ來ル、隨テ從來ノ保險料デハ保險 料率ヲ引上ゲマシテ、保險料率ノ「バラ ンス」ヲ取ルヤウニ致シタイト考ヘテ 居リマス、要ハ普通ノ保險ノヤウニ、 必ズ取ッタナラバ、其保險料デ屹度維持 シナケレバナラヌト云フヤウナ建前ニ ハシナイ積リデアリマス、ト申シマス ノハ、此保險ガ本來事業主ガ負擔スベ
○富田政府委員 地方費ノ負擔ニ付キ マシテハ、茲ニ提案ニナッテ居リマス特 別會計法ガ出マシタコトデアリマスカ ラ、其特別會計法ニ依ッテ、地方ニモ事 務ノ繁閑ニ依リマシテ、一定ノ人ト、 事務費ハ適當ニ地方廳ニ配置スルヤウ ニ致シタイト思ッテ居リマス、大體ハ全 體ノ保險業ノ内事務費ト見込ンデ居リ マスノハ、約一割ヲ事務費ニ見積ッテ居 ルノデアリマシテ、其一割ノ事務費ハ	キ扶助責任デアリマシテ、ソレヲ國家 ガ安全ヲ期スル爲ニ保險スルノデアリ マスカラ、隨テ國家ハ唯事業主ノ責任 ヲ保險スルダケデアリマシテ、殘金ヲ 生ジタ場合、不足ヲ生ジタ場合、何レ モ事業主ノ責任ニ於テ保險ヲ致シタ イ、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス ○東條委員 最前ノ御説明デ見マス ト、此法律ヲ實施スルニ當リマシテハ、 地方廳ヲ通ジテヤラセルト云フコトデ アリマスルガ、サウ致シマススト、場所 ニ依テハ警察ノ事務ガ相當殖エテ來ル ト思フノデアリマス、是等ノ地方費ニ 對シテ、今一部ノ事務費ヲヤリタイト 云フコトデアリマスルガ、地方カラ幾 ラカ交付金デモヤラレルトカ、何トカ 云フヤウナコトニナリマセウカ、唯地 方自治體ノ方ニ對シテハ別ニ費用ハヤ ラナイデ、仕事ダケナセルト云フコト ニナルノデアリマスカ	○富田政府委員 地方費ノ負擔ニ付キ マシテハ、茲ニ提案ニナッテ居リマス特 別會計法ガ出マシタコトデアリマスカ ラ、其特別會計法ニ依ッテ、地方ニモ事 務ノ繁閑ニ依リマシテ、一定ノ人ト、 事務費ハ適當ニ地方廳ニ配置スルヤウ ニ致シタイト思ッテ居リマス、大體ハ全 體ノ保險業ノ内事務費ト見込ンデ居リ マスノハ、約一割ヲ事務費ニ見積ッテ居 ルノデアリマシテ、其一割ノ事務費ハ	キ扶助責任デアリマシテ、ソレヲ國家 ガ安全ヲ期スル爲ニ保險スルノデアリ マスカラ、隨テ國家ハ唯事業主ノ責任 ヲ保險スルダケデアリマシテ、殘金ヲ 生ジタ場合、不足ヲ生ジタ場合、何レ モ事業主ノ責任ニ於テ保險ヲ致シタ イ、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス ○東條委員 最前ノ御説明デ見マス ト、此法律ヲ實施スルニ當リマシテハ、 地方廳ヲ通ジテヤラセルト云フコトデ アリマスルガ、サウ致シマススト、場所 ニ依テハ警察ノ事務ガ相當殖エテ來ル ト思フノデアリマス、是等ノ地方費ニ 對シテ、今一部ノ事務費ヲヤリタイト 云フコトデアリマスルガ、地方カラ幾 ラカ交付金デモヤラレルトカ、何トカ 云フヤウナコトニナリマセウカ、唯地 方自治體ノ方ニ對シテハ別ニ費用ハヤ ラナイデ、仕事ダケナセルト云フコト ニナルノデアリマスカ

極ク切詰メテアル積リデアリマスガ、地方ニ於テモ共事務ノ繁閑ニ依ッテ多少ノ事務費ト人トヲ一割ノ範圍内デ配置シヨウ、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス、隨テ國ノ事務トシテ居リマスカラ、地方ノ自治體ニハ負擔ヲ掛ケナイ考デアリ積リデアリマス

○東條委員 是ハ根本問題デ、又扶助責任ト云フモノガ結局事業主ノ負擔ニナル形ニナッテ居リマスケレドモ、漸次進メルト労働者ニ轉嫁サレルノデハナイカト云フコトガ問題ニナッテ、此藤原君カラモ質問ガアリマシタ、是ハ實際問題トシテハドウシテモ結局ハ労働者ニ轉嫁サレルコトニナルノデアリマス、サウサセナイ爲ニハドウ云フコトニナルカト云フト、國其他公共團體等デアル請負制度ト云フモノヲモウ少シ改善ヲ致サナケレバ、ドウシテモ、唯此扶助ノ費用ドロノ話デハナイ、詰リ工事ヲ請負フ者ガ、最前モ申上ゲタヤウニ、場合ニ依ッテハ利害モ前ニシテ兎モ角仕事ニ有付イテ居ナケレバ食フコトガ出來ナイト云フ上カラ、缺損ヲ豫想シテ仕事ヲ取ル、サウシテ資本家ヲ倒シ、労働者ヲ倒スト云フヤウニヤッテ居ル、斯ウ云フ不確實ナ請負人ハ少クモ國及ビ公共團體ノ工事ヲ請負フ所ノ資格ガナイト云フコトニナッテ行キマセスケレバ、ドウシテモ扶助ノ責

任ハ結局労働者ニ轉嫁サレルコトニナル、之ニ付テハ社會局ノ關係デハアリマセヌガ、餘程攻究ヲ要スルと思ヒマスカラ、内務省トシテ斯ウ云フ點ニ付テ何カ御研究ナリ、御調査ナリノ腹案ヲ現ニ御立テニナッテ居ラヌトスレバ、御立テニナルコトガ必要デハアルマイカト思フ、又社會局トシテハ労働者ヲ保護スル上カラ、此請負制度ノ根本ニ對シテ適當ナ立案ヲサレテ、關係當局ヲ動カシテヤラレルコトガ必要デアラウト思フ、具體的ノ例ヲ申上ゲレバ、鐵道ノ工事等ハ比較的ニ單價ハ與ヘテ居ル、サウシテ鐵道省ノ方針ガ何シロア、云フ人ノ生命ニ關スル工事デアラカラ、仕事ノ監督ヲ嚴重ニシテ、サウシテ十分ニ仕事ヲサセル、其代リニ單價ハ相當ニ與ヘルト云フ方針デ指名入札ヲサレテ居リマスガ、昨今大分事業者ガ多クナッテ、世ノ中ガ不景氣ニナッタカラ、此方ニモ相當無理ナ請負ヲスル人が出來テ、隨テ多少ノ弊害ガアルト云フ話ヲ聞イテ居リマスガ、其他ノ官廳、公共團體ハ法規ニ依ッテ公入札ノ方法ガ規定サレテ居リマスガ、之ニ依リマス、或ル一定ノ資格ヲ備ヘテ、書類ヲ出セバ何人デモ入札ガ出來ル、其人ノ請負工事ノ歴史ニ於テ、労働者ニ對シテドウ云フ取扱ヲシ、ドンナコトヲシテ居リマシテモ、ソナコトハ

其人ノ品位ヲ傷ケナイ、税金ヲ納メテ居ルトカ、何ボ以上ノ工事ヤッテ居ルト云フコトガ必要デアル、労働者ノ關係、或ハ資本家ヲ倒シタカナントカ、ソナコトハ問題ニナラヌ、ソレデアリマスカラ、無理ニ仕事ヲ取ッテ、結局労働者虐メラヤルト云フコトニナル、此問題ハ社會局トシテハ十分御研究ニナッテ、適當ナ案ヲ御作リニナッテ、御主管デナクトモ労働者ノ爲ニ進ンデ積極的ニ内務省ヲ動カシテ、何トカ解決策ヲ講ジナケレバナラヌコト、思フノデアリマス、此點ニ付テ何カ御話ガアリマシタナラバ、此場合御同致シタイト思ヒマス

○富田政府委員 請負制度ノ改正ト申シマス、適當ナ監督ト言ヒマス、左様ナ必要ガアルト云フ御説ハ御尤ト思ヒマス、自分等ノ事務ヲ致シテ居ル實際カラ申シマス、國、公共團體ニ請負ハス場合ニ於キマシテハ、請負人ニ致シマシテモ、可ナリ身許ガ喧シイノデアリマス、又餘リ安ク請負ヒ過ギテ、却テ労働賃銀ヲ支拂ヘナイヤウニナルト云フノデナク、落札ノ最低價額マデキメテ居ルコトデアリマスカラ、比較的弊害ガ少イト思ヒマス、唯純然タル私ノ事業ニ付テハ、御話ノヤウニ労働保護ノ上ニ於テ從來ノ請負方カラ言ヒマス、可ナリ弊害ガアルト云フ

コトハ吾々モ聞及ンデ居リマス、隨ヒマシテ、是等ノ弊害ニ對シマシテ今ドウ云フ對策ヲ持ッテ居ルカト云フ御尋デアリマスガ、今請負制度ニ付テノ考ヘ方、方法ニ付テ具體的ナ案ハマダ持合セテ居リマセヌ、唯御承知ノヤウニ、地方デハ土木建築何カハ取締ノ規定ガアリマシテ、土木建築業者ニ於テモ組合等ヲ組織シテ、自分等自體トシテモ從來ノ親分子分ノ關係デハ行ッテ居ナイ、モウ少シ事業主自體ニ於テモ段々組織ヲ定メ、サウシテ人格等ニ於テモ相當向上シテ行カウト言フ目的ノ團體ガボツ／＼出來掛ッテ居リマスカラ、此仕事ヲ實行致スニ於キマシテモ、サウ云フ團體ト連絡ヲ取ッテ、其團體自體ガ堅實ニ行クコトニナレバ、其團體ノ構成分子タル土木建築業者等ノ者モ多少直スコトガ出來ルカラ、サウ言フ機關ヲ通ジテ漸次此法ノ行ハレテ行クヤウニシタイト言フ位ノコトハ考ヘテ居リマスケレドモ、根本的ニ現在ノ請負制度ニ付テノ改正意見ト云フモノハ今持合セテ居リマセヌガ、御話ノ點ハ御尤ナコトダト思ヒマス、此仕事ヲ始メルニ付キマシテモ、十分考慮ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

○安藤委員 實ハ色々本會議ナドノ關係デ時間ノ都合ガ旨ク行カナイノデスガ、簡單ニ一二ダケ質問ヲ致シタイト

思ヒマス、今回ノ勞働者災害扶助法案ノ適用事業ニ對スル勞働者ノ調べガ出テ居リマスガ、昭和五年十月一日ノ調べデ五十一萬千九百四人トアリマス、然ルニ此勞働者災害扶助法ヲ政友會内閣ノ時ニ提出ヲ致シマシテ、昭和三年ノ當時ニ於テ調べマシタ勞働者數、即チ勞働者災害扶助法適用事業ニ於ケル所ノ勞働者數、是ハ昭和二年十月ノ調べデアリマスガ、之ニ依リマスト百五十七萬七百五十四人アルノデアリマス、僅カ三年バカリノ間ニ、之ヲ適用スル所ノ勞働者ノ數ガ、前ニハ百五十七萬人アリ、今回ハ五十一萬人シカナイ、玆ニ百六萬ノ相違ガアル、僅カナ相違ハ當然デアリマセウガ、三年ノ間ニ百六萬モ之ヲ適用スル勞働者ノ數ガ減ッテ居ルト云フノハ、是ハドウ云フ譯デアリマスカ、簡單ニ御説明ヲ願ヒマス

○安藤委員 社會局ノ斯ウ云フ方面ニ對スル調査ノヤリ方ニ根本的ニ疑義ヲ抱イテ居ル、失業對策ノ問題ニ付キマシテ、本會議ニ於テ、又豫算總會ニ於テ數回質問致シマシタガ、社會局ノ答辯ハ、ヤハリ今アナタガ言ハレルヤウナ調子ノ答辯デアッテ、私ニハ諒解ガ出來ナイ、單リ私ガ諒解ガ出來ナイノミナラズ、世間一般ハ此説明デハ諒解シテ居ラナイト思フ、現ニ從事シテ居ルト云フコトデアリマスガ、前ニハ職業カラ調べタ、今回ノハ現ニ從事シテ居ル者ヲ調べタ、現ニ從事シテ居ルト云フノハドウ云フ譯デアアルノカ、職業ヲ調べテ行ケバ職業ニドレダケノ者ガ從事シテ居ルカト云フコトガ分ル、職業ヲ漫然調べテ統計ガ出來ル筈ガナイ、數字ガ出ル筈ガナイ、ヤハリ前ノデアッテモ、現在ノ數ガドノ位アルカト云フコトヲ基礎トシテ調べラレタコト、思フ

○富田政府委員 曩ニ調べマシタノハ前ニ説明致シマシタヤウニ、工事ノ規模ヲ問ハズ、若クハ其勞働者ノ就業、不就業ヲ問ハズ、一般ニ其職ニ居ル勞働者ノ數ヲ取調べタノデアリマス、又今回ノハ一萬圓以下及ビ木造建築ヲ除クト云フコトニ相成ッテ居リマス、サウシテ本法ノ適用ヲ受ケナイ者ハ除外致スコトニ致シマシテ、即チ現ニ施行スルトスレバ其適用ヲ受ケル者ハドレダケアルカト云フコトヲ調査致シマシテ、前者ハ例ヘバ大工、左官、假ニ例ヲ取ッテ見マス、宅ニ居リマス者デモ曩ニハ數ヘラレテ居ルノデアリマスガ、今回ハ現ニ大工、左官ノ業ニ從事シテ居リマセヌナラバ、ソレハ除外シタ建前ノ調べ方ニ致シマシテ、基礎ヲ變ヘタノデアリマスカラ、サウ云フ開キガ出テ來タノデアリマシテ、調べノ基礎ガ全然變ッテ居ルノデアリマス

○安藤委員 此法ヲ適用スル場合ニハ、前ノ時ノ調べ方ニ依ッタ方ガ寧ロ適當デハナカラウカト思フノデス、今御説明ガアッタ通り、不況ト云フコトモ影響シテ居ル、昨年カラ今年ニ掛ケマシテ事業界ト云フモノハ極度ニ萎縮シテ居ル、デアリマスカラ勞働者ノ數ト云フモノモ極度ニ少クナッテ居ル、此極度ニ少クナッテ居ルモノヲ基礎トシタヤリ方ヲスルト、此法ヲ適用スルト云フコトニナッテカラ總テノ算當ガ狂ッテ困ルト云フコトガ生ジテ來ルノデハナカラウカ、寧ロ昭和二年十月當時ニヤッタ調べ方ノ方ガ宜イノデハナイカ、即チ產業界ガ復活シ、事業界ガ活潑ニナッテ來レバ、ソレダケ勞働者モ多ク必要ニナルト云フ譯ニナッテ來、又吾々ハ國民トシテサウ云フコトヲ翹望シナケレバナラス、サウ致シマスレバ今日ノ極度ニ萎縮シ、極度ニ少數ノ場合ヲ基礎トシテ玆ニ五十一萬ト云フ數ヲ出シタト云フコトハ、寧ロ不適當デハナカラウカト私ハ思フ

○富田政府委員 先ノ政友會内閣ノ時ニ取調べマシタ勞働者數ト申シマスモノハ、簡單ニ申シマス職業調査ノヤウナモノデアリマシテ、詰リ全體ノ其職業ニ居ル勞働者ノ總數ヲ其當時取調べタノデアリマス、今回取調べマシテ御手許ニ參ッテ居リマス數字ハ、御覽下サル通り、此施行シタイト云フ事業ニ現ニ從事シテ居ル者、言ヒ換ヘマス、例ヘバ事業ナラバ一萬圓以上ノ事業ト云

○富田政府委員 先ノ政友會内閣ノ時ニ取調べマシタ勞働者數ト申シマスモノハ、簡單ニ申シマス職業調査ノヤウナモノデアリマシテ、詰リ全體ノ其職業ニ居ル勞働者ノ總數ヲ其當時取調べタノデアリマス、今回取調べマシテ御手許ニ參ッテ居リマス數字ハ、御覽下サル通り、此施行シタイト云フ事業ニ現ニ從事シテ居ル者、言ヒ換ヘマス、例ヘバ事業ナラバ一萬圓以上ノ事業ト云

○富田政府委員 調べ方ノ御意見デゴザイマスガ、御承知ノ通り今回ハ扶助法ト同時ニ保險ヲ始メルト云フヤウナコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、隨テ保險經濟ヲ直グ持タナケレバナラヌ關係上、勞働者ノ調べト致シマシテハ、御承知ノヤウニ職業調査ト云フモノハ可ナリ困難ナモノデアリマシテ、現ニ今從事シテ居ル者モ、此法案ハ來年ノ一月一日カラ始メルコトニナッテ居リマ

○富田政府委員 調べ方ノ御意見デゴザイマスガ、御承知ノ通り今回ハ扶助法ト同時ニ保險ヲ始メルト云フヤウナコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、隨テ保險經濟ヲ直グ持タナケレバナラヌ關係上、勞働者ノ調べト致シマシテハ、御承知ノヤウニ職業調査ト云フモノハ可ナリ困難ナモノデアリマシテ、現ニ今從事シテ居ル者モ、此法案ハ來年ノ一月一日カラ始メルコトニナッテ居リマ

スカラ、無論時ト共ニ動キマスガ、其保
險經濟ヲ取ル爲ニハ、現ニ居ル労働者
ヲ調ベテ、サウシテ保險經濟ヲ取ルト
云フコトニ致サナケレバ、此仕事ノ開
始ガ出來ナカッタ結果、現在居ル者ハ幾
ラト斯ウ押ヘタノデアリマシテ、勿論
事業ニ從事シテ居ル者ノ數ト云フモノ
ハ、經濟ノ消長ニ依ッテ移動致シマス、
隨テ此法ノ適用ヲ受ケル者、同時ニ事
業者ニ致シマシテモ、亦此保險ヲ受ケ
ル者ノ數モ、自然ニ變ッテ來ルト思ヒマ
スガ、調ベマシタ者ハサウ云フ考ヘ方
デ、一般ニドレダケ労働者ノ數ガアル
カト云フコトデナク、事業本位デ調ベ
マシタ結果、サウ云フコトニ相成ッタノ
デアリマス、其必要ハ前申シタヤウナ
必要カラ取調ヲ致シタノデアリマス

ガ現實ノ調デアルカラ、確カナ調デア
ルト言ッテ、少キヲ發表シテ、少キヲ誇ッ
テ居ルノデアル、併ナガラ社會ノ實情
ハ、ソレトハ全ク反比例ニ行ッテ居ル、
ドン／＼ト失業者が出來テ居ル、社會
局ノ三十七萬ヤ八萬デナイコトハ當然
ノコトデアル、況ヤソレヲ國勢調査デ
又五萬モ少クシテシマッテ、其少イト云
フコトヲ標準ニシテ、形バカリノ申譯
的ノ失業對策ヲヤッテ居ルト云フコト
ハ、吾々ハ國民ト致シマシテ頗ル不滿
デアル、今度ノ調査ノ仕方モ、ヤハリ
ソレニ類シタ傾ガ、今ノ説明ニ依ッテモ
アルト思フノデアリマス、法ヲ立テマ
ス場合ニハ、將來ヲ豫期シテヤラナケ
レバナラヌ、殊ニ現在深刻ナル不況デ
アッテ、事業界ガ極度ニ萎縮シテ居ルノ
デアリマスカラ、是ハ私ハ基準ニナラ
ヌト思フ、サウ云フ建方ヲシナイデモ
ウ少シ將來ヲ見込シテ、現在ガソレナ
ラ、將來ハ此位ニナルノデアル、經濟
狀態ガ回復シテ、事業界ガ活潑ニナレ
バ、平時ノ狀態トシテハ、今ノモノヲ
參酌シテ是位ニナルノデアルト云フ、
第二ノ表デモ出シテ、其調査ヲ吾々ノ
質問應答ノ材料ニスルト云フ方ガ、親
切デヤナカラウカト思フ、唯少イ所ダ
ケヲ出シテ置イテ、ソレニ依ッテ調査ヲ
進メテ行クト云フコトハ、如何ニモ政
府ノ態度ガ誠意ヲ缺イテ居ルノデハナ

カラウカト思フノデアリマス
○一宮政府委員 只今富田政府委員ト
安藤君ノ質問應答ハ、多少御互ニ喰違
ヒガアルノデハナイカト思フノデアリ
マス、今回提出致シマシタ此表ハ、勞
働者ノ災害扶助ノ適用ヲ受ケル人員ノ
調デアリマシテ、總テノ是等ノ事業ニ
從事シテ居ル所ノ労働者ノ數デハナイ
ノデアリマス、隨テ同ジ建築ニ致シマ
シテモ、工事費一萬圓、或ハ延人員千
人以下ノ工事ニ對スル所ノ労働者ノ數
ト云フモノハ、此中ニハ含マレテ居ナ
イノデアリマス、又同ジ建築ニ致シマ
シテモ、本法ノ適用カラ除外セラレ
住宅建築等ニ從事シテ居ル人ハ含マレ
テ居ナイノデアリマス、隨テ昭和二年
ノ調ニ於テ百五十七萬圓ト云フ數ガ出
タノデアアルケレドモ、本法ノ適用ヲ受
クベキ者ハ昭和二年ニ於テモ相當少イ
數デアッタラウト思フノデアリマス、ソ
レデ今日ハ經濟界ガ極度ニ萎縮シテ居
ル際デアアルカラ、此調査ノ災害扶助ノ
適用ヲ受クベキ人モ、自ラ事業ノ不振
ニ伴ウテ、多少ノ減少ヲ見テ居ルデア
ラウトハ思ヒマス、隨テ將來事業ノ勃
興ニ伴ウテ、是ガ増加スベキコトモ安
藤君ノ御説明ノ通りデアル、併シ其ノ
數ト云フモノハ、是ノ二倍ニモナルト
カ云フヤウナ、大シタ數デハナイト吾
吾ハ信ジテ居ルノデアリマス、而シテ

現在此事業ノ基礎ヲ、茲ニ此調査ノ資
料ヲ作ッタト云フコトハ、此責任保險ノ
關係カラシテ、先ヅ見易キ數ヲ出サナ
ケレバナラヌ、現在ノ數ヲ出シテ、其
適用ノ範圍ヲ知ラナケレバナラヌト云
フ説明ヲ、只今富田君ガ申上ゲマシタ
ガ、此調ヲ出シタト云フコトハ其通り
デアリマス、然ルニ安藤君ノ御質問ト
致シマシテハ、將來經濟界ガ景氣ニナ
ルナラバ、更ニ是ヨリ數ハ増加スルデ
アラウ、サウスルト云フト、其數ヲ承
知シナケレバ、ドウモ本案ノ問題ヲ論
ズルノニ不便デアルト云フ御質疑デア
リマスガ、ソレモ一應御尤デアルト思
ヒマス、併シ此數字ノ基礎ヲ出シマシ
タコトハ、是ハ災害扶助ノ責任保險ノ
數字トシテ出シタノデアリマシテ、將
來事業ガ殷賑ニナッテ、更ニ此法ヲ適用
サルベキ人間ガ多クナレバナル程、此
災害扶助ノ實施ト云フモノハ容易ニナ
ルノデアッテ、適用ヲ受クベキ人ガ多ク
ナッタガ爲ニ、此扶助責任保險事業ヲ實
行シテ行ク上ニ於テ困難ヲ來スモノデ
ハナイノデアリマシテ、多クナレバ多
クナル程、此實行ニ國家トシテハ便利
ニナッテ來ルノデアリマスカラ、此基礎
ノ數字ノ上ニ御審議ヲ御進メ下サッテ
モ、決シテ私ハ差支ナイノデハナイカ
ト思フノデアリマス

○安藤委員 今一宮君ノ御話ニ、前ノ

昭和二年ノ時ニ出シタ勞働者ノ數ト云フモノガ百五十七萬ニナツテ居ルガ、併ナガラ本法適用ノ數ハ相當少カッタラウト云フ御話デアリマスガ、昭和二年ノ時ニ政府カラ出サレタ百五十七萬ト云フ數ハ、ヤハリ勞働者災害扶助法適用事業ニ於ケル勞働者ノ數デス、ソレハアナタノ手許ヲ調べラ分ルト思ヒマス

原因ノ一ツニナツテ居ル、サウ致シマスルト、的確ナル數ハ分ラヌトシテモ、前ノ時ニ調べタ數ト、今度調べタ時ノ數ト、其相違ノ多クノ部分ハ、仕事ニ今從事シテ居ラナイ失業者ト云フコトニ看做シテ差支ナイト思ヒマスガ、ヤハリサウ云フ御意見デスカ

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

○一宮政府委員 ソレハ私ハ失業者ト認メテ居ナイノデアリマス、即チ本法ノ適用ヲ受ケル所ノ勞働者ト云フモノハ、或ハ建築土木ノ工事デアラナラバ、一萬圓或ハ延人員一千人以上、普通ノ工事デハ勞働者十人以上ヲ使ツテ居ル者ト云フノデアルガ、或ル個々ノ一事態ヲ捉ヘテ、ソレ以上ノ事業ヲ調べテ見ルト現實ニ働イテ居ルモノ、即チ本法ノ適用ヲ受ケル人間ヲ調べテ見マスルト、其範圍ニイツカハ入ッテハ來ル人間ハ百五十七萬人アツテモ、ソレハ或ハ五十萬デアルトカ、或ハ六十萬位ノモノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、即チ法ノ適用ヲ受ケル仕事ニ從事シテ居ナイ、或ハ一萬圓以下ノ工事ニ從ッテ居ル建築ニ從ッテ居ルトカ、或ハ四五人デ住宅建築ニ從事シテ居ル、或ハ二三人デ手傳ニ行ク人間ガアル、ソレハ相當多イ、其昭和二年ノ時ニ於テハ是等ノ人モイツカハ其事業ニ入ッテ來ルコトガアルノダカラシテ、即チ百五十七萬ト云フモノヲ出シタノデアアル

ケレドモ、其現實ヲ捉ヘテ計算致シマシタナラバ、或ハ五六十萬デアッタカモ知レス、或ハ多クとも六七十萬位ノモダト私ハ實ハ推定スルノデアリマス、ソレデ今日ニ於テ同時ニ其職業ニ從事シテ居ル人が百五十七萬人アッタト假定致シマシテ、現在モサウアルト推定致シマシテモ、其中デ本法ヲ適用スル人間ガ五十七萬人デアアルケレドモ、其以外ノ、然ラバ百萬人ノ人間ガ何ヤツテ居ルカト云フト、其百萬人ノ勞働者ノ大部分ト云フモノハ、本法ノ規定以外ノ事業ニ相當澤山從事シテ居ルデアラウト思ヒマス、建築ニ致シマシテモ、住宅建築ノ方ガ一萬以上、或ハ一年ノ延人員一千以上、一年ノ延人員ハズツト高イト思フ、隨テ是等ノ人間ヲ悉ク失業者デアルト見ルノハ、是ハ餘リニ過酷ナ推定デアルト思フ、吾々ハ其點ニ於テ安藤君ト見ル所ヲ同ジウシナイコトヲ憾ミトスルノデアリマス

○安藤委員 悉ク失業者デアルトハ私ハ言ハナイ、言ハナイガ、併ナガラ先程言ツタ通りニ、現ニ此不況ノ影響モアルトアナタ方ガ言ハレルヤウニ、ソレガ爲ニ失業ヲシテ居ル者ガアツテ、實際從事シテ居ラナイ者ガ多數デアルト云フコトハ、是ハ否マレナイ事實デアラウト思フノデアリマス、將來、段々此適用ノ範圍ト云フモノハ殖エテ來ル、殖エテ來ルカラ、ソレヲ見越シテ行カナケレバナラナイト私ハ思フノデアリマス、此保險デアリマスガ、色々此間カラノ質問應答ニモ出タノデアラウト思ヒマスガ、私ハ色々外ノ方ニ出テ差支ガアツテ出ラレナカッタ爲ニ、重複スル點ガアルカモ知レマセヌガ、簡單ニ聽イテ置クノデスガ、鑛山及ビ工場關係ノ方ハ今回ノ此法案ニ對シテドウ云フ立場ニ立ツノデスカ、一寸簡單ニ言ツテ戴キタイ

○富田政府委員 工場、鑛山ハ任意保險、強制サレルモノデナク加入ガ任意ト云フコトノ建前デアリマス

○安藤委員 本法ニ依ル保險ノ方ハ主トシテ強制保險デセウ

○富田政府委員 土木建築ハ強制ト相成ッテ居リマス、其他ニ災害扶助保險法ノ第三條ニ「勅令ノ定ムル事業」ト云フコトガアリマシテ、別ニ勅令デ定ムルモノハ強制保險ニ入ッテ來ルノデアリマス、言換ヘテ見マスルト、強制保險ニ入りマスルモノハ、土木建築及ビ將來勅令ニ依ッテ指定スルモノ、其他ノモノハ任意保險、サウ云フ建前ニナツテ居リマス

○安藤委員 鑛山、工場ノ方ガ任意保險デ、ソレカラ本法ニ依ル方モ、其一斑ハヤハリ任意保險ト云フコトニシテ、其一斑ヲ以テ強制保險ニ、斯ウ云

フ風ニ分ケタ理由ノ極ク重要點ハ何處ニアリマスカ

○富田政府委員 土木、建築ニ付キマシテハ、先程カラ御話ガアリマシヤウニ、薄資者ガ可ナリ多イノデアリマシテ、扶助ノ成果、ソレカラシテ危険ノ分散ト云フヤウナコトヲ考ヘルコトガ

一ツト、ソレカラ一ツハ事業主ノ方モ強制ヲ希望スルト云フヤウナ關係ガゴザイマシテ、之ヲ保險トシ——且之ヲ國營保險トシマシタ次第デゴザイマス

○安藤委員 サウ云フ建前デ、此國營保險ト云フコトヲヤリマシテ、結局此保險ト云フモノガ旨ク行クコトガ出來ルカドウカト云フコトニ對シテ一ツノ疑問ガアル、詰リモウ少シ言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、危険率ノ多イヤウナ仕事ノモノガ、餘計ニ其保險ノ恩澤ヲ受ケルト云フ結果ニナルデアリマセウ、サウ致シマス、若シ此保險デ同ジヤウナ取扱ニ致シマス、工場トカ鑛業ト云フコトヨリハ、危険率ノ多イ本法ニ依ル所ノ労働者、其方ガ主ニ此保險ノ遂ニハ恩澤ヲ餘計ニ受ケルト云フコトニナル、サウ致シマス、結局其危険率ガ多イ、或ハモウ一ツハ業務ガ振ハナ

イト云ッヤウナモノガ保險ノ方ヘ這入ッテ來テ、保險ノ恩澤ヲ餘計ニ受ケルト云フコトニナリマスカ、結局國營保

險ト云フモノガ將來收支ノ「バランス」ヲ取ルニ困難ヲ感ズルヤウニナリハシナイカ、斯ウ云フ疑問ヲ持ッテ居ルノデアリマスカ、此點ノ御見込ハ如何デアリマスカ

○富田政府委員 土木建築事業ニ付テハ相當危険率ト安全率ヲ見積リマシテ、保險經濟ヲ立テ、行ク積リデアリマシテ、現在ノ所、保險經濟ヲ脅スコトガナイヤウニシテ保險施行ガ出來ルコト、考ヘテ居リマス、其他ノ事業ニ付キマシテハ、例ヘバ工場ニ致シマシ

テモ、色々御承知ノ通りニ産業ノ種類ガアリマス、其産業ノ種類ニ依ッテ又危険率ガ違ッテ參リマス、隨テ危険率ノ高イモノニ付テハ高イ保險料ヲ取ルト云フヤウナコトニ致シマシテ、保險經濟ヲ持ッテ行キマスガ爲ニ、危険率ノ上下ニ依ッテ、保險經濟ガ危ナルト云フコトハナイノデアリマス

○安藤委員 實ハモウ少シアリマスカ、モット時間ヲ延バシテ戴ケマセヌ

○山邊委員長 アナタ一人ノ爲ニ昨日ト今日ヲ割イタノデアリマスカ、其程度ニ願ヒタイト思ヒマス

○東條委員 此當時十人以上ノ解釋ハドウ云フコトニナリマスカ、例ヘバ茲ニ一ツノ仕事ヲ請負ッテ居ル者ガ、甲ノ仕事デハ九人使ヒ、乙ノ仕事デハ八人

使ッテ、一ツノ仕事デハ十人ニ滿タナイ、全部合計シタ場合ニ十人以上ニナルト云フ場合ハドウナリマスカ

○富田政府委員 當時十人ト認メラレバ、其時ハ九人八人デアリマシテモ、或ル時ハ十二人十三人ト云フコトモアリマセウ、併シ之ヲ當時通算シテ見ルト其人ガ十人以上ヲ使用シテ居

ル、斯ウ認メラレル場合ニハ、當時十人ト認メルノデアリマシテ、此建前ハ工場法ニ於テモ、當時十人以上ノ工場ニ付テト書イテ、サウ云フ取扱ヲシテ居リマス

○榎谷委員 「コンクリート」ヲヤル者ト、鐵筋ヲヤル者ハ別々デ、鐵筋ヲヤル者ガ二人、「コンクリート」ヲヤル者ガ八人、ソレヲ合計シテ十人ニナルト云フ、東條君モサウ云フ意味デ聽カレタノデハナイカト思フ

○富田政府委員 サウ云フ不特定ナ者デモ、工事全體トシテ十人以上使ッテ居レバ、此通り認メルノデアリマス

○坂東委員 労働者災害扶助法案外ニ件ニ對シマシテハ各委員カラ精細ナル質問ガアリ、之ニ對シテ當局カラ詳細ナル答辯ガアッタノデアリマス、勿論此兩者ノ間ノ見解ニ付テハ多少相違ノ點ハアリマセウガ、質疑事項トシテハ大體盡キタヤウニ思ヒマスカ、此程度ヲ以テ質疑ヲ打切ラレンコトヲ希望致

シマス

○山邊委員長 坂東委員ノ御發議ニ御異議アリマセヌカ

○山邊委員長 ソレデハ是カラ討論ニ入リマス、別ニ御發議ハアリマセヌカラ……

○東條委員 一寸委員長

○山邊委員長 アナタノハ保留シテアリマス——政府原案ニ付テ御異議アリマセヌカ

○山邊委員長 ソレデハ多數ヲ以テ政府提出ノ労働者災害扶助法案、労働者災害扶助責任保險法案、労働者災害扶助責任保險特別會計法案、此三案ハ委員會ニ於テ多數ヲ以テ可決致シマシタ（拍手）長々御苦勞デゴザイマシタ、是デ散會致シマス

午後三時四十分散會

昭和六年三月十八日印刷

昭和六年三月十九日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社